

俺の しい魂^{たま}が
ラブドールに
入っちまった件

山牧田 湧進



まえがき

【ご注意ください】

- この作品はフィクションです。実在の人物・地名・団体等とは一切関係ありません。
- この作品は成人ゲイ向け官能小説であり、男性同性愛を語っています。同性愛に嫌悪感を抱く方はご覧にならないよう、お願い申し上げます。
- この作品は表現の誇張、強調や、省略のある、必ずしも現実には即していないファンタジーであることをご了承ください。
- 特に作品中の性的描写は、現実の性交渉における性病等のリスクを意図的に排除しています。現実と混同しないよう、ご注意願います。
- この作品は想像して楽しんでいただくものです。現実との区別を付けられず、犯罪や迷惑行為に及ぶ危険のある方はご覧にならないでください。

【あらすじ】

ノンケに抱かれない願望を持っているゲイって結構居るみたいだけど、それって、絶対に叶わない願いじゃない？

だって、その男の意思で抱いてくるんだったら、その男ノンケじゃないじゃん。

なんかしらの事情があって抱いてくるんだったら、そんな嫌々で抱かれるんでもOKなの？ それって、変じゃん？ って思っちゃう。

でもさ、あり得ないことなんだけど、俺、ノンケに抱かれまくっちゃった。相手は中年童貞キモオタデブだけど。

その相手の方々（一人じゃないんだぜ）は、男を抱いているとは、全く思ってもいないだけどさ。

だって、俺の身体、ラブドールなんだもん。

【目次】

俺の魂がラブドールに入っちゃった件……01

俺の魂がラブドールに入っちゃった件

大変なことが起こった。どうか慌てずに、冷静に聞いて欲しい。

いや、君が大変なのではない。俺が、大変なのだ。

落ちていたような口調で始めているが、これは、俺が自分自身に向けて『落ち着け』と諭しているためだ。

本来だったら、とても落ち着けるような状況ではない。それに、元々俺は、そんなに丁寧な語り口調の人間ではない。

……人間ではない……。

そう、今、俺自身に分かることといえば、多分、俺は人間ではなくなっている。

なぜ、俺自身に自分を認識できる意識があるというのに、俺が人間ではないと分かるのか。

真っ暗闇に、身動きを取れない息苦しさ。もし、俺が人間なのだとしたら、『ちよっと扱いが雑過ぎるだろう』と、文句を言いたくなるような衝撃とか振

だから、俺は間違いなく男だ。

ガタン！ ガタガタ、ガサゴソ、トットトットト、ピンポーン。

何か、急に慌ただしくなった。

俺はどこかに運ばれているっぽい。

「〇〇さんですね。ご確認ください。宜しいですか。判子ここにお願ひします」

「ありがとうございます」

ん？

「来た、来た、ついに来たぞ〜」

俺、ひよっとして、宅配便の荷物かなんかになってる？

「ふひひひひ、愛しのナナちゃん〜」

な!? ナナちゃん!? ナナちゃん、って、何だ？

ガガッ、ガガッ。

うおっ、危ねーな。お前、そんなにカッターの歯立てたら、俺に当たるだろ
うが！ せっかくの新品をさっそく傷物にする気か？

ガサツ。

うおっ、眩しー。すっげー久し振りの光。

んで？ 俺はいったい何になっているや……

ギ、ヤー—————!!!

お、おおお、おっばい！

ま、ままま、マンコ！

く、くくく、クリトリス！

俺、女！ 裸！ 油！ シリコン！ エ・ラ・ス・ト・マー！

俺、ラブドールになってるうううう!! うっ

……。

俺の魂が ラブドールに入っちゃった件

Author 山牧田 湧進
 (Yamakida Yuushin)

Circle Gradual Improvement

URL graduali.blog.fc2.com

個人で楽しんでいただく作品です。

個人の使用範疇を超える無断転載やコピー、共有、アップロード等はしないでください。

(こちらは体験版です。)